

事務事業マネジメントシート

事務事業名		観光資源開発推進事業				本年度担当課	観光推進課	
						前年度担当課	観光推進課	
政策 体系	基本目標	02 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	01 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	02 魅力ある観光資源の開発と整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01 新しい観光資源の開発と整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営	
	一般	XX	XX	XX	観光資源開発推進事業	事業分類	その他内部事務事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成27年度 ~			
根拠法令・条例等								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）												
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
本市各地に埋もれている、多くの人にまだ知られていない観光資源の調査・発掘や、新たな観光ルートの開発によって、新たな観光資源として活用できるか調査研究を行う。					林道作原沢入線新たな観光ルートとして、展望台等を設置することとし、次年度から事業を進めることとした。（林道作原沢入線展望台等整備事業）							
					活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					調査した観光資源数		箇所	1	1	1	1	1
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）												
観光スポット					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
観光スポット					箇所			134	134	135	136	137
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
新たな資源開発を発掘・整備を行う。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					開発・整備した観光資源数		目標	4	4	3	4	3
							実績	0	2			
							目標					
							実績					
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
観光資源として整備されている。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					開発・整備した観光ルート		目標	1	1	1	1	1
							実績	0	0			
					開発・整備した観光資源数		目標	3	3	2	3	2
実績	0	2										

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0.02	0.01	0	0	0
	人件費計(B)	千円	147	73	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	147	73	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	観光資源開発推進事業	本年度担当課	観光推進課
		前年度担当課	観光推進課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	観光立市という、観光による佐野市の振興・まちづくりを推進するために開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	栃木県は観光立県とちぎを目指し、新とちぎ観光立県戦略が策定した。SDGsに関する社会的な機運の高まりを受け、オーバーツーリズム対策、自然保護、文化や歴史の保全をはじめ、環境に配慮した持続可能な観光(サステナブルツーリズム)が求められている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	議会から中山間地域（奥佐野）の観光開発についての質問があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	林道作原沢入線を観光資源として整備に向け、事務を進めることとした。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
令和5年度から整備を進めることとした。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
観光資源開発までには至らなかったが、令和7年度を目途に新たな観光資源として林道作原沢入線への展望台を設置することとし、事業を進めることにした。		近隣自治体との連携を図り、観光スポットを結ぶ観光ルート等を検討する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中		○				
	小						
		大	中	小			
		成果向上余地					